

上富良野町立病院改築基本構想



令和2年9月

上富良野町

【目次】

はじめに

I 基礎調査：地域を取り巻く環境	2
1 外部環境の分析：富良野圏域の状況	2
(1) 医療圏について	2
(2) 将来人口推計	3
(3) 富良野区域内の病床数と地域医療構想の必要病床数等	5
2 内部環境の分析：町立病院の状況	6
(1) 沿革	6
(2) 概要	6
(3) 患者数等の状況	6
(4) 救急医療体制の状況	10
(5) 経営の状況	11
(6) 病院改築の必要性	13
3 将来推計等を踏まえた病院の規模等の検証	14
(1) 一般病床	14
(2) 介護医療院	15
4 新町立病院が目指す方向性	16
5 医療と福祉の連携の確保	17
II 新町立病院の基本方針の策定	18
1 施設整備の基本的な考え方	18
2 病床規模	18
3 診療科目	18
4 整備スケジュール	19
5 改築場所の検討	19
6 建設予定地と配置図	20
7 階層計画	20
8 概算面積と事業費	20

はじめに

上富良野町立病院（以下、「町立病院」という。）は、昭和 33 年 9 月に 54 床を有する「町立国民健康保険直営病院」として、現在の保健福祉総合センター「かみん」の所在地において開設され、昭和 54 年 12 月に一般病床 80 床で現在地において改築開院されました。

入院患者数は昭和 56 年度の 30,982 人をピークに減少に転じ、国の医療制度改革もあり、平成 12 年 3 月に一般病床 36 床を療養病床に転換、一般病床 44 床と療養病床 36 床（医療療養 16 床、介護療養 20 床）の病床構成となりました。平成 20 年 12 月に療養病床 36 床を 8 床削減し、介護療養型老人保健施設 28 床に転換、令和 2 年 7 月には、介護療養型老人保健施設を介護医療院 28 床に転換し、一般病床 44 床と介護医療院 28 床の 72 床で、現在に至っています。

築後 40 年を経過し老朽化はもとより、患者のプライバシー保護や快適な医療環境の提供、高齢化の進展に伴う医療福祉・保健サービスへの需要増加と新型コロナウイルス感染症の対策など、時代のニーズに即した医療と介護のサービスの提供が困難になってきています。

また、町立病院は、昭和 54 年建設のため、建築基準法の耐震基準が旧耐震基準にて建設されており大規模地震（震度 6 以上）発生時には倒壊の可能性があることに加え、応急的な改修工事により病院機能の維持に努めてきたため、大規模な改修工事は未実施であります。

平成 28 年の消防法施行令の改正により、令和 7 年 6 月 30 日までに現町立病院へのスプリンクラー設置が義務付けられ、現状のままでの運営が不可能となりました。

以上の状況から、この「上富良野町立病院建設基本構想」は、町立病院の改築整備にあたっての基本資料（骨子）として取りまとめたものであり、富良野区域地域医療構想会議や令和 7 年（2025 年）の富良野区域地域医療構想の区域内必要病床数等の不確定要因がありますが、新病院の整備に当たっては、今後この基本構想に基づいて、新病院建設基本計画の策定検討を進めてまいります。



I 基礎調査：地域を取り巻く環境

1 外部環境の分析：富良野圏域の状況

(1) 医療圏について

町立病院は、下記の富良野圏域の状況に示すように、北海道地域医療計画の中で、第二次医療圏は富良野医療圏、第三次医療圏は道北医療圏に位置しています。

富良野医療圏は、北海道のほぼ中央に位置し、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の1市3町1村からなり、面積は2,183.68 km²で東京都2,187 km²に匹敵する広さです。

また、地形は、東に十勝岳をはじめとして富良野岳などの山々が連なり、西に夕張岳、芦別岳など、山脈に囲まれた南北に広がる平坦地が富良野盆地を形成しており、気温の日格差、年格差が大きい内陸性気候で、夏季の最高気温は35度前後に達し、冬期の最低気温は零下30度近くになることもあります。

富良野医療圏の有床の医療機関は、町立病院の他、富良野市に、「社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院（以下「富良野協会病院」という。）」と「医療法人社団ふらの西病院（以下「ふらの西病院」という。）」、中富良野町に、「中富良野町立病院（以下「中富町立病院」という。）」の4つの病院と1つの医院（医療法人社団かわむら整形外科医院）であります。

救急指定病院は、地域センター病院である富良野協会病院と町立病院の2カ所であり、富良野医療圏の救急医療の重要な役割を果たしています。

一方で富良野区域内の病床数と富良野区域地域医療構想の機能別病床数の比較では、本区域は、高度急性期病床は無く、急性期病床が過剰な地域で、回復期病床、慢性期病床への転換が示されています。

富良野圏域の状況



救急指定病院

(2) 将来人口推計

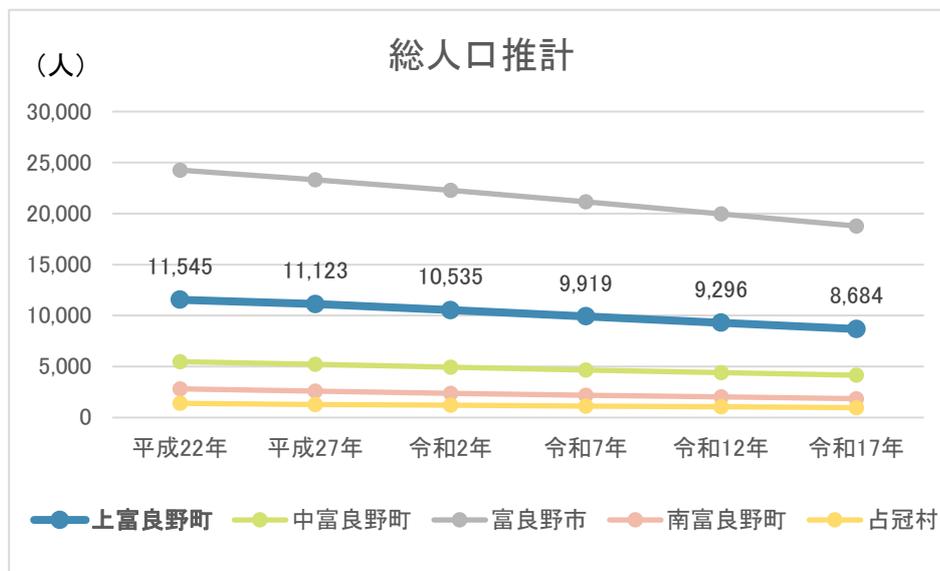
医療法第30条の4に基づき定められた北海道医療計画では、同法による第2次医療圏を地域医療構想区域としており、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村の1市3町1村で構成される区域については富良野医療圏とし、富良野区域地域医療構想が定められています。

平成28年12月にまとめられた富良野区域地域医療構想では、平成25年3月公表の国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を基に、区域内の病床必要量を算出しています。

① 総人口推計

(単位：人)

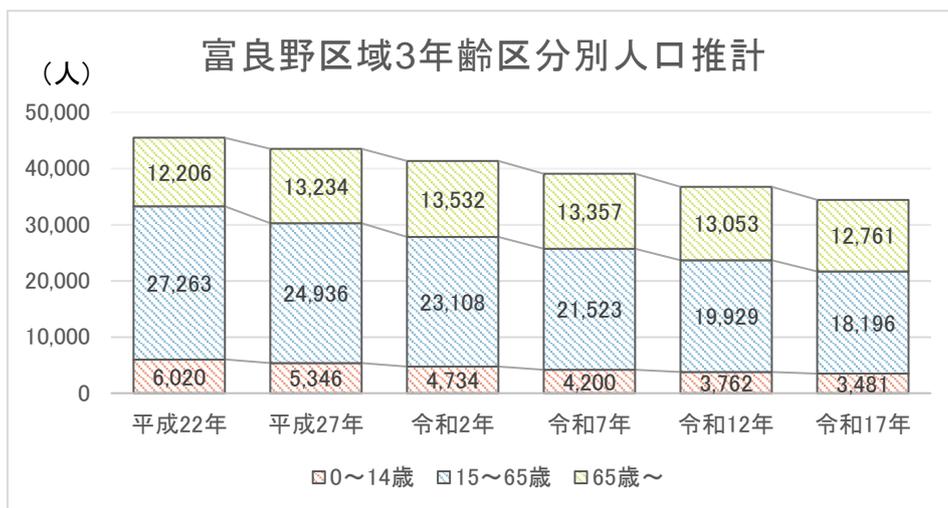
	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年
北海道	5,506,419	5,361,296	5,178,053	4,959,984	4,719,100	4,462,042
富良野区域	45,489	43,516	41,374	39,081	36,744	34,438
上富良野町	11,545	11,123	10,535	9,919	9,296	8,684
中富良野町	5,477	5,214	4,946	4,672	4,400	4,149
富良野市	24,259	23,299	22,288	21,159	19,976	18,776
南富良野町	2,814	2,588	2,389	2,197	2,018	1,853
占冠村	1,394	1,292	1,216	1,134	1,054	976



② 富良野区域3年齢区分別人口推計

(単位：人)

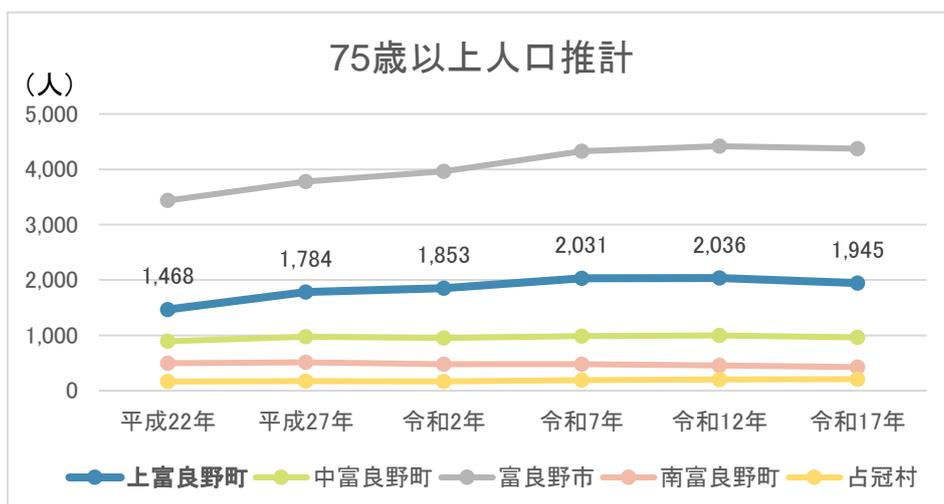
	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年
0～14歳	6,020	5,346	4,734	4,200	3,762	3,481
15～64歳	27,263	24,936	23,108	21,524	19,929	18,196
65歳～	12,206	13,234	13,532	13,357	13,053	12,761



③ 75歳以上人口推計

(単位：人)

	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	令和 7 年	令和 12 年	令和 17 年
富良野区域	6,463	7,225	7,416	8,023	8,110	7,922
上富良野町	1,468	1,784	1,853	2,031	2,036	1,945
中富良野町	894	976	954	990	998	965
富良野市	3,436	3,779	3,962	4,329	4,418	4,376
南富良野町	499	513	480	479	456	427
占冠村	166	173	167	194	202	209



(3) 富良野区域内の病床数と地域医療構想の必要病床数等

① 平成 27 年病床機能報告と令和 2 年 7 月現在の機能別病床数

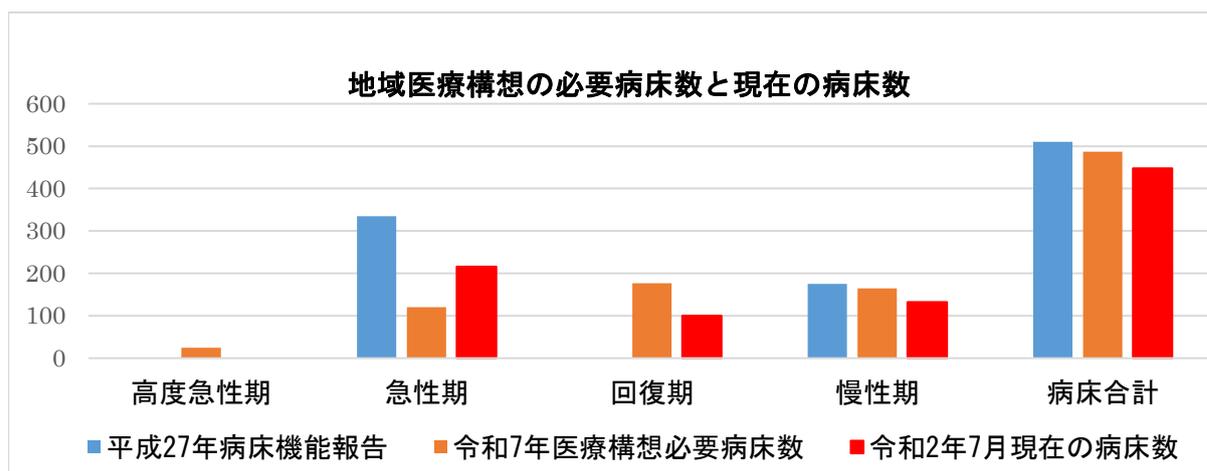
(単位：床)

区分	施設名	高度急性期		急性期		回復期		慢性期		合計	
		H27	R2	H27	R2	H27	R2	H27	R2	H27	R2
病院	上富良野町立病院	0	0	44		0	44	0	0	44	44
診療所	渋江医院	0	0	19	0	0	0	0	0	19	0
病院	中富良野町立病院	0	0	0		0	0	35	35	35	35
病院	富良野協会病院	0	0	195	145	0	50	56	56	251	251
病院	ふらの西病院	0	0	58	52	0	6	84	41	142	99
診療所	かわむら整形外科医院	0	0	19	19	0	0	0	0	19	19
合計		0	0	335	216	0	100	175	132	510	448

② 地域医療構想の必要病床数の比較

(単位：床)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
平成 27 年病床機能報告による区域内の病床数 (上表④)	0	335	0	175	510
令和 2 年 7 月現在の病床数 A	0	216	100	132	448
富良野区域地域医療構想の令和 7 年の区域内必要病床数 B	25	120	177	165	487
差引(A-B)	▲25	96	▲77	▲33	▲39



平成 27 年度の富良野医療圏の病床機能報告では、全体で 510 床でありましたが、各医療機関等で病床区分の見直しや変更がなされ、令和 2 年 7 月の同報告では 448 床と 62 床が減少し、高度急性期が 25 床不足、急性期病床が 96 床過剰、回復期病床が 77 床と慢性期病床が 33 床不足している状況で、町立病院は令和元年に急性期病床(44 床)を回復期病床へ転換を行っております。

将来的には、人口減少等で入院患者も減少傾向になると予測されることから病床数の見直しが必要です。

2 内部環境の分析：町立病院の状況

町立病院は現在、一般病床 44 床と介護医療院(医療機関併設型) 28 床の計 72 床で運営しています。一般診療はもとより、救急診療、訪問リハビリに加え、自衛隊診療、特別養護老人ホーム診療、予防接種や健康診断の業務も行っていきます。

(1) 沿革

年 月	内 容
昭和 33 年 8 月	上富良野町立国民健康保険直営病院開設許可を受ける
9 月	開院 病床数 54 敷地面積 10,914 m ² 建物面積 1,362.45 m ²
昭和 34 年 11 月	伝染病隔離病棟併設 (15 床)
昭和 37 年	結核病棟 (12 床) を増設 総病床数 66 : 一般病床 54、結核病床 12
昭和 48 年	現病院建設予定地用地取得 (19,279 m ²) 一般病床を 7 床増床、結核病床 8 床を一般病床に転換 総病床数 73 : 一般病床 69、結核病床 4
昭和 53 年 5 月	現病院改築着工
昭和 54 年 12 月	現病院開院 総病床数 80 : 一般病床 80
平成 12 年 3 月	一般病床 36 床を療養病床に転換 総病床数 80 : 一般病床 44、療養病床 36 (医療療養 16、介護療養 20)
平成 20 年 12 月	療養病床 36 床を介護療養型老人保健施設 28 床に転換 総病床数 72 : 一般病床 44、介護療養型老人保健施設 28
令和 2 年 7 月	介護療養型老人保健施設 28 床を介護医療院 28 床に転換

(2) 概要

項 目	内 容 (令和元年 4 月 1 日現在)
施 設	構 造 鉄筋コンクリート造 2 階建 敷地面積 14,510 m ² 建築面積 3,717.075 m ²
病床数	一般病床 44 床 (急性期一般入院料 6) 介護医療院 28 床
診療科	内科、外科、救急科 専門外来：肝臓内科 (月 2 回)、血液・腫瘍内科 (週 1 回)、循環器内科 (隔週 1 回)
主な施設基準	急性期一般入院料 6、救急医療管理加算、入院時食事療養費 I
主な公的指定	救急告示病院、不採算地区病院第 2 種
職員数	50 人： 医師 3、看護職員 32、薬剤師 2、理学療法士 1、作業療法士 1、柔道整復師 1、検査技師 3、放射線技師 2、管理栄養士 1、事務職 4

(3) 患者数等の状況

【入院患者・老人保健施設入所者(令和元年度までの集計)の推移】

昭和 54 年 12 月の現病院開院後、国の医療制度改革、介護保険制度の施行に伴い、平成 12 年 3 月には一般病床 80 床のうち 36 床を療養病床 (医療療養 16 床と介護療養 20 床) に転換、平成 20 年 12 月には療養病床 36 床を 8 床削減し、介護療養型老人保健施設 28 床に転換、病院の実情と地域のニーズに合わせた病床変更を行ってきました。

令和2年7月には、介護療養型老人保健施設28床を廃止し介護医療院を開院（28床）しています。
 一般病床の入院患者数は、昭和56年度には30,982人とピークを迎えますが、長期入院における診療報酬の削減、在宅看護の推進など社会的な要因もあり、減少の一途をたどっています。

◎ 病床別 入院患者・入所者数の推移

年度	一般病床			療養病床			介護療養型老人保健施設			利用者 合計 (人/年)
	入院数		稼働 率 (%)	入院数		稼働 率 (%)	入院数		稼働 率 (%)	
	(人/年)	(人/日)		(人/年)	(人/日)		(人/年)	(人/日)		
S55	32,202	88.2	110.3							32,202
S56	30,982	84.9	106.1							30,982
S57	30,547	83.7	104.6	昭和55年～平成11年 一般病床80床 平成12年～平成20年 一般病床44床 療養病床36床（医療療養16、介護療養20） 入院数は一般病床60床（一般病床44床＋医療療養16床）と介護療養20床でカウント 平成20年12月～ 一般病床44床 介護療養型老人保健施設28床 令和2年7月～ 一般病床44床 介護医療院28床						30,547
S58	29,633	81.2	101.5							29,633
S59	28,733	78.7	98.4							28,733
S60	30,763	84.3	105.4							30,763
S61	29,287	80.2	100.3							29,287
S62	27,842	76.3	95.3							27,842
S63	26,912	73.7	92.2							26,912
H1	27,221	74.6	93.2							27,221
H2	27,056	74.1	92.7							27,056
H3	28,031	76.8	96.0							28,031
H4	27,198	74.5	93.1	27,198						
H5	26,036	71.3	89.2	26,036						
H6	23,591	64.6	80.8	23,591						
H7	21,843	59.8	74.8	21,843						
H8	20,799	57.0	71.2	20,799						
H9	19,945	54.6	68.3	19,945						
H10	19,508	53.4	66.8	19,508						
H11	19,079	52.3	65.3	596					19,675	
H12	15,887	43.5	72.5	6,307	17.3	86.4				22,194
H13	15,645	42.9	71.4	7,065	19.4	96.8				22,710
H14	15,859	43.4	72.4	7,730	21.2	105.9				23,589
H15	13,386	36.7	61.1	8,832	24.2	121.0				22,218
H16	12,932	35.4	59.1	9,514	26.1	130.3				22,446
H17	11,550	31.6	52.7	8,731	23.9	119.6				20,281
H18	11,283	30.9	51.5	8,004	21.9	109.6				19,287
H19	12,140	33.3	55.4	7,308	20.0	100.1				19,448
H20	12,440	34.1	56.8	4,746			3,187			20,373
H21	12,246	33.6	76.3				9,748	26.7	95.4	21,994
H22	10,780	29.5	67.1				9,580	26.2	93.7	20,360
H23	9,826	26.9	61.2				9,214	25.2	90.2	19,040
H24	9,448	25.9	58.8				9,321	25.5	91.2	18,769
H25	9,420	25.8	58.7				9,099	24.9	89.0	18,519
H26	8,427	23.1	52.5				9,178	25.1	89.8	17,605
H27	7,340	20.1	45.7				9,760	26.7	95.5	17,100
H28	7,106	19.5	44.2				9,872	27.0	96.6	16,978
H29	7,275	19.9	45.3				9,687	26.5	94.8	16,962
H30	6,821	18.7	42.5				9,796	26.8	95.9	16,617
R元年	7,199	19.7	44.8				9,273	25.4	90.7	16,472

◎ 診療科目別 一般病床入院患者数の推移

年度	病床数	内科 (人)	外科 (人)	産婦人科 (人)	入院数 (人)	稼働率 (%)	1日平均 (人/日)
S55	80床	21,485	8,439	2,278	32,202	110.3	88.2
S56		20,679	8,139	2,164	30,982	106.1	84.9
S57		23,758	4,421	2,368	30,547	104.6	83.7
S58		25,495	3,534	604	29,633	101.5	81.2
S59		24,730	3,498	505	28,733	98.4	78.7
S60		23,212	6,884	667	30,763	105.4	84.3
S61		21,363	6,529	1,395	29,287	100.3	80.2
S62		20,119	6,716	1,007	27,842	95.3	76.3
S63		21,731	4,503	678	26,912	92.2	73.7
H1		22,031	4,677	513	27,221	93.2	74.6
H2		20,090	6,549	417	27,056	92.7	74.1
H3		21,208	6,101	722	28,031	96.0	76.8
H4		21,576	4,882	740	27,198	93.1	74.5
H5		20,982	4,255	799	26,036	89.2	71.3
H6		19,238	3,540	813	23,591	80.8	64.6
H7		18,037	3,065	741	21,843	74.8	59.8
H8		16,607	3,449	743	20,799	71.2	57.0
H9		15,986	3,269	690	19,945	68.3	54.6
H10		16,560	2,550	398	19,508	66.8	53.4
H11		16,941	2,341	393	19,675	89.8	52.3
H12	60床	13,989	1,717	181	15,887	72.5	43.5
H13		12,516	3,129		15,645	71.4	42.9
H14		12,816	3,043		15,859	72.4	43.4
H15		11,261	2,125		13,386	61.1	36.7
H16		10,935	1,997		12,932	59.1	35.4
H17		9,539	2,011		11,550	52.7	31.6
H18		10,045	1,238		11,283	51.5	30.9
H19		11,067	1,073		12,140	55.4	33.3
H20		11,364	1,076		12,440	56.8	34.1
H21		11,391	855		12,246	76.3	33.6
H22	44床	10,214	635		10,780	67.1	29.5
H23		9,191	635		9,826	61.2	26.9
H24		8,900	548		9,448	58.8	25.9
H25		8,882	538		9,420	58.7	25.8
H26		7,842	585		8,427	52.5	23.1
H27		6,780	560		7,340	45.7	20.1
H28		6,663	443		7,106	44.2	19.5
H29		6,718	557		7,275	45.3	19.9
H30		6,478	343		6,821	42.5	18.7
R元年		6,856	343		7,199	44.7	19.6

【外来患者の推移】

内科は平成8年度の45,150人、外科は平成5年度の30,156人をピークに減少しています。主な要因としては、平成13年に整形外科が町内に開院したことのほか、平成25年から長期投薬と予約診療を開始したことなどが考えられます。

診療体制の充実として、平成20年から富良野協会病院との病病連携により循環器内科（隔週）、平成29年から旭川医科大学第三内科の出張医により、富良野医療圏唯一の診療科目となる血液腫瘍内科（週1回）と肝臓内科（月2回）を標榜しています。（単位：人）

年度	内科	外科	産婦人科	泌尿器科	循環器内科	眼科	血液・腫瘍内科	肝臓内科	合計	一日平均
S55	40,395	22,424	3,604						66,423	226.7
S56	35,659	29,682	4,499						69,840	237.6
S57	35,962	25,973	5,027						66,962	227.8
S58	33,366	22,252	2,541						58,159	191.0
S59	31,695	23,302	2,353						57,350	195.7
S60	33,329	29,715	1,870						64,914	220.0
S61	32,657	27,364	3,732						63,753	217.6
S62	33,502	28,337	2,614						64,453	218.5
S63	32,304	25,447	2,330						60,081	205.8
H1	31,878	25,844	1,548						59,270	202.3
H2	31,223	26,907	1,197						59,327	203.9
H3	37,640	30,107	2,029						69,776	243.1
H4	37,197	29,808	3,223						70,228	259.1
H5	37,658	30,156	3,557						71,371	264.3
H6	40,575	28,561	3,451						72,587	297.5
H7	42,969	28,159	3,240						74,368	304.8
H8	45,150	29,003	3,507						77,660	317.0
H9	38,551	23,396	2,879						64,826	264.6
H10	40,065	22,755	2,379						65,199	266.1
H11	38,170	22,004	1,941						62,115	254.6
H12	36,493	21,399	1,620						59,512	244.9
H13	35,135	14,730							49,865	204.4
H14	33,242	13,176							46,418	188.7
H15	29,251	12,424							41,675	168.7
H16	27,397	10,594							37,991	156.3
H17	25,470	10,330		630					36,430	156.3
H18	25,560	8,836		1,728					36,124	148.0
H19	25,638	7,365		1,592	54				34,649	142.0
H20	24,849	6,464		1,557	284	278			33,432	136.5
H21	26,567	5,952		1,553	370	487			34,929	144.3
H22	25,232	5,957		1,470	425	649			33,733	138.8
H23	24,544	5,562		1,478	442	586			32,612	133.6
H24	23,014	4,914		1,468	396	764			30,556	125.2
H25	20,859	4,250		1,437	445	666			27,657	112.8
H26	20,311	4,291		1,413	471	269			26,755	109.2
H27	19,585	4,107		1,620	484				25,796	106.1
H28	19,058	3,894		1,492	448				24,892	102.4
H29	17,080	3,464		1,632	433		627	556	23,792	97.9
H30	19,190	3,558		195	449		546	482	24,420	100.5
R元年	17,875	3,603			414		590	500	22,982	95.3

※1 平成13年 小野沢整形外科医院が開院した

※2 平成25年4月から、長期投薬を、同年7月から、院長の内科に限り予約診療科開始

(4) 救急医療体制の状況

・富良野医療圏の救急指定病院は2病院

富良野医療圏内の救急指定病院は、地域センター病院である富良野協会病院と町立病院の2病院であります。町立病院に年間1,100人以上の救急外来患者が受診しており、仮に、町立病院が救急指定病院を取り下げた場合、富良野協会病院の運営に大きな支障を来すことが想定されます。

・ゲートキーパー（門番）としての役割

上富良野町は旭川医療圏まで約40km、富良野医療圏の中心となっている富良野市までは約15kmの位置にあり、町立病院は救急患者や重症者の初療をはじめ、各医療圏へ適切に搬送するゲートキーパー（門番）として大きな役割を果たしています。

・救急搬送の実績

令和元年の上富良野消防署が行った医療機関への救急搬送（転院搬送を除く）352人のうち83.8%にあたる295人を町立病院が受け入れており、脳梗塞や心筋梗塞、急性大動脈解離、重症外傷、中毒などの重傷疾患の初療、治癒とともに、富良野市や旭川市の医療機関への転送を行うなど、住民の生命を守るうえで重要な役割を果たしています。

◎ 上富良野消防署の救急搬送実績（平成29～令和元年度）（単位：人、%）

救急搬送先	平成29年度				平成30年度				令和元年度			
	内 容		搬送数		内 容		搬送数		内 容		搬送数	
	急病	事故等	合計	%	急病	事故等	合計	%	急病	事故等	合計	%
上富良野町立病院	198	100	298	80.8%	218	83	301	84.1	192	103	295	83.8%
富良野協会病院	25	21	46	12.5%	22	17	39	10.9%	23	17	40	11.4%
ふらの西病院 北の峰病院	3	10	13	3.5%					2		2	0.6%
旭川医科大学病院					4		4	1.1%	3		3	0.9%
旭川赤十字病院	6	3	9	2.4%	7	5	12	3.4%	6	2	8	2.2%
その他	1	2	3	0.8%	1	1	2	0.5%		4	4	1.1%
計	233	136	369	100%	252	106	358	100%	226	126	352	100%

◎ 町立病院の救急外来受診数の推移（単位：人）

年	人数	入院	転送	年	人数	入院	転送
平成16年	2,169	217	44	平成24年	1,409	131	36
平成17年	2,089	198	45	平成25年	1,303	119	32
平成18年	2,169	197	46	平成26年	1,397	130	40
平成19年	2,237	183	40	平成27年	1,251	101	37
平成20年	1,813	124	33	平成28年	1,161	112	52
平成21年	2,146	180	30	平成29年	1,019	120	51
平成22年	1,681	132	36	平成30年	1,155	137	56
平成23年	1,583	128	45	令和元年	1,161	112	52

※「入院」「転送」は「人数」の内数

・富良野協会病院の救急外来の受診者について

富良野協会病院の救急外来受診者を自治体別でみると、本町の受診者数は645人と人口規模が約半数の中富良野町の742人を下回っております。中でも、町立病院の診療科目である内科系と外科を合わせても165人とどまっております、中富良野町の288人に比べて受診患者数が低い結果となっていることから、時間外患者の大半が町立病院を受診しております。

◎ 富良野協会病院の自治体別救急外来受診者数（平成30年度）（単位：人、％）

自治体名	富良野協会病院の救急外来受診者数		内科 消化器循環器	外科	内科+外科合計	小児科	その他
富良野市	受診者数	3,216	1,232	171	1,403	327	1486
	全体に占める割合	52.9%	62.2%	48.7%	60.1%	21.9%	66.0%
	疾患別割合	100.0%	38.3%	5.3%	43.6%	10.2%	46.2%
上富良野町	受診者数	645	128	37	165	271	209
	全体に占める割合	10.6%	6.5%	10.5%	7.1%	18.2%	9.3%
	疾患別割合	100.0%	19.8%	5.7%	25.6%	42.0%	32.4%
中富良野町	受診者数	742	255	33	288	210	244
	全体に占める割合	12.2%	12.9%	9.4%	12.3%	14.1%	10.8%
	疾患別割合	100.0%	34.4%	4.4%	38.8%	28.3%	32.9%
南富良野町	受診者数	329	113	19	132	87	110
	全体に占める割合	5.4%	5.7%	5.4%	5.7%	5.8%	4.9%
	疾患別割合	100.0%	34.3%	5.8%	40.1%	26.4%	33.4%
占冠村	受診者数	105	42	3	45	9	51
	全体に占める割合	1.7%	2.1%	0.9%	1.9%	0.6%	2.3%
	疾患別割合	100.0%	40.0%	2.9%	42.9%	8.6%	48.6%
その他	受診者数	1,041	212	88	300	589	152
	全体に占める割合	17.1%	10.7%	25.1%	12.9%	39.5%	6.7%
	疾患別割合	100.0%	20.4%	8.5%	28.8%	56.6%	14.6%
合計	受診者数	6,078	1,982	351	2,333	1,493	2,252
	全体に占める割合						
	疾患別割合	100.0%	32.6%	5.8%	38.4%	24.6%	37.1%

(5) 経営の状況

平成21年度から24年度までは黒字決算でしたが、25年度以降は赤字決算が続いています。主な要因としては、①平成25年から開始した長期投薬による受診回数の抑制、②内科外来受診者の平準化を目的とした予約診療の開始による外来患者の減少、③泌尿器科外来の休止等が挙げられます。

また、一般病床では新規の入院患者が減少しておりますが、介護医療院の患者数が安定していることから、長期の療養を必要とする慢性的な疾患を抱えた高齢者の患者が介護医療院を利用している影響が考えられます。

公立病院の果たすべき役割として、救急医療や高度不採算医療、へき地医療など全国一律の診療報酬制度のもとでは不採算にならざるを得ない部門においても医療体制を確保しなければならない現実があります。

それらの経費については、地方公営企業法により町の一般会計が負担すべきものとされ、総務省から繰出基準が示されていますが、町立病院に対しては繰出基準に上乗せして負担しているもののほか、経営安定化のための特別繰出を行うなど独自の負担を行っていますが、赤字決算が続いており、経営は依然として厳しい状況にあるといえます。

町立病院では「公立病院改革プラン」（平成 21～23 年度）を策定し経営の改善に努めてきたほか、「新改革プラン」（平成 29～令和 2 年度）において費用削減と収入確保対策などを定め、より質の高い、持続可能な病院経営に向けた取り組みを進めています。

① 決算状況の推移

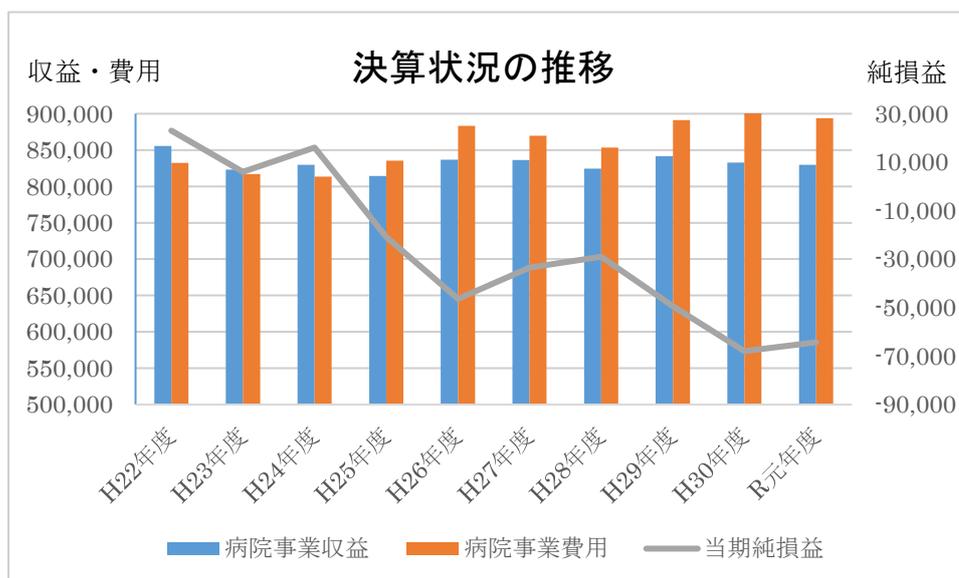
【収益】

(単位：千円)

項目	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
医業収益	573,369	544,416	553,845	544,814	530,620	528,032	519,959	541,495	532,686	537,029
老健施設収益	135,414	130,882	137,078	133,123	132,342	142,610	141,365	138,252	134,480	129,608
医業外収益	146,714	147,803	138,712	136,652	172,582	165,548	163,138	161,895	165,633	162,950
特別利益	0	0	0	0	1,410	0	0	0	0	0
病院事業収益	855,497	823,101	829,635	814,589	836,954	836,190	824,462	841,642	832,799	829,587

【費用】

医業費用	700,126	684,316	675,613	700,378	715,226	717,006	704,918	737,549	751,194	748,258
老健施設費用	119,700	119,011	123,667	123,285	122,287	132,043	130,080	128,993	130,229	124,843
医業外費用	12,596	13,743	14,297	11,747	18,435	20,659	18,445	24,488	19,325	20,757
特別損失	46	0	0	60	27,371	11	11	13	0	15
病院事業費用	832,468	817,070	813,577	835,470	883,319	869,719	853,454	891,043	900,748	893,873
当期純損益	23,029	6,031	16,058	▲20,881	▲46,365	▲33,529	▲28,992	▲49,401	▲67,949	▲64,286



(6) 病院改築の必要性

町立病院は地域医療を支える要であり、地域での暮らしにおける安全・安心を担保する最も重要な施設であります。しかし、現町立病院では、老朽化と狭隘化が著しく、患者のプライバシーの確保や快適な医療環境や感染症対策、高齢化の進展に伴う医療福祉・保健サービスの提供も困難になってきております。

このため、将来にわたってその役割を確実に果たし続けられるように施設機能の充実に向け改築整備を図ることとしました。

・老朽化と狭隘化について

開院後 40 年を経過し、配管や機械設備の老朽化等の物理的劣化が進んでおり、併せて、施設の構成が東西南北に細長い上、エレベーターが 1 基しかないため、入院患者や救急患者の検査時に、外来患者待合ロビーを通行する等の施設の非効率な配置となっており、患者と職員動線の効率的・機能的な配置が必要であります

一般病床のトイレが 1 カ所であり、各病室にポータブルトイレを配置しての対応や、建設時の職員数は 78 名でしたが、現在の職員数は 120 名 (1.5 倍) となり、老朽化と狭隘化により時代のニーズに即したサービスの提供も困難になってきております。

・スプリンクラー設置と大規模改修について

平成 28 年の消防法施行令の改正により、令和 7 年 6 月 30 日までにスプリンクラー設置が義務付けられました。現町立病院は、天井が低いことに加え、天井懐が狭小なため露出型のスプリンクラー設置となり、整備費は約 1 億 5 千万円と試算されています。

現町立病院の大規模な改修も検討しましたが、工事により発生する騒音や振動、粉じん等、入院患者や入所者の居住環境、外来患者の受診環境への悪影響が懸念され、また、スプリンクラーを設置することで火災時の安全対策は講じられるものの、医療施設としての機能改善が図られるわけではないことから、その費用対効果は限定的といえます。

・陸上自衛隊上富良野駐屯地について

本町には、陸上自衛隊上富良野駐屯地と陸上自衛隊上富良野演習場が存在しており、上富良野駐屯地には町の人口の約 1 割近くの自衛官等が駐屯しており、併せて上富良野演習場では、全国の各部隊が実弾演習も含め活発に訓練しております。

町立病院は、駐屯地への出張診療はじめ、けが等の救急診療を実施しております。

・耐震について

現町立病院は、昭和 54 年に建設され、建築基準法の耐震基準が旧耐震基準のため大規模地震 (震度 6 以上) 発生時には倒壊の恐れがあり、耐震の新耐震基準を満たしていない可能性があります。

建築後 40 年間大規模な整備工事は未実施であり、応急的な改修工事により病院機能の維持に努めてきました。

・感染対策について

富良野医療圏では、新型コロナウイルス感染症の診療は、中核病院の富良野協会病院が指定されております。

町立病院は救急指定病院であることから、感染の疑いのある患者を受け入れておりますが、診察室や経過観察室、陰圧病室、トイレの配置など、施設機能と配置において感染対策が未整備であります。

3 将来推計等を踏まえた病院の規模等の検証

(1) 一般病床

令和元年の町立病院の入院実績を基に傷病分類別入院延患者を推計したところ、令和12年に21.7床、令和22年に20床と予測されており、併せて、過去11年間のピーク病床数（人/日）の平均が33.5床であります。将来的には、人口は減少しますが、75歳以上の後期高齢者の人口については増加傾向が続くため、入院患者は増えると予想され、また、町立病院の老朽化により入院を控えていた患者の増も見込まれます。

北海道から、新型コロナ感染が拡大した場合は、感染患者受け入れている富良野協会病院の一般患者と感染疑いの患者を町立病院で受け入れてほしいと要請されており、今後も富良野医療圏が連携して対応するため、新病院では、感染予防対策としての一般病床に陰圧病室2床の設置を検討しております。

町立病院が、町内の唯一の有床医療機関であることから、従来通り救急病床6床を確保し、一般病床数は現在の44床を14床減床し、30床とすることで検討いたします。

最終的な病床数については、今後の富良野区域地域医療構想調整会議等の不確定な要因があること、また、病床機能については、現在の回復期機能を維持した中で、将来的には患者状況を見据え検討します。

主病別 傷病分類別入院延患者推計(上富良野町立病院)

実患者数上位抜粋

(人)

分類番号	分類名	R元年度			R7年	R12年	R17年	R22年	R27年
		延患者数	総金額	診療単価	推計患者数	推計患者数	推計患者数	推計患者数	推計患者数
a-1002	肺炎	1,998	48,750,774	24,400	2165.4	2179.2	2122.6	2030.7	1931.4
a-1107	その他の消化器系の疾患	443	14,517,821	32,772	441.4	428.5	408.2	383.8	357.5
a-1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	722	17,851,174	24,725	762.9	762.8	739.4	703.6	665.4
a-1902	その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	268	6,529,036	24,362	262.4	254.9	243.0	228.0	211.6
a-1006	その他の呼吸器系の疾患	490	12,267,369	25,035	523.1	523.9	509.2	486.5	461.6
a-0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	369	8,812,594	23,882	391.5	391.5	379.4	360.6	340.6
a-1403	その他の腎尿路生殖器系の疾患	485	11,185,684	23,063	510.8	507.2	490.0	465.9	439.8
a-0101	腸管感染症	247	5,891,676	23,853	243.6	236.1	224.0	210.1	195.7
a-0905	その他の脳血管疾患	164	3,776,147	23,025	170.6	169.3	163.6	155.1	145.5
a-0903	その他の心疾患	273	6,937,862	25,413	295.4	297.2	289.3	276.3	262.3
a-0204	その他の悪性新生物	316	8,101,040	25,636	312.2	303.8	290.9	274.1	254.2
a-0203	気管、気管支及び肺の悪性新生物	327	8,500,006	25,994	330.4	324.5	314.6	300.6	281.6
総計	総計	7,591	190,563,487	25,104	7961.7	7916.7	7659.5	7286.4	6876.6
	1日当たりに換算%	20.7	床	1日当たり	21.8	21.7	21.0	20.0	18.8

※ICDコード付与の無い疾患は除外した

出典：上富良野町立病院レセプト（R元年度）

厚生労働省「平成29年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

主病別 傷病分類別入院延患者数推計

年度	病床数	内科 (人)	外科 (人)	入院数 (人)	稼働率 (%)	1日平均 (人/日)	ピーク 病床数 (人/日)
H21	44床	11,391	855	12,246	76.3	33.6	44
H22		10,214	635	10,780	67.1	29.5	41
H23		9,191	635	9,826	61.2	26.9	36
H24		8,900	548	9,448	58.8	25.9	36
H25		8,882	538	9,420	58.7	25.8	36
H26		7,842	585	8,427	52.5	23.1	34
H27		6,780	560	7,340	45.7	20.1	29
H28		6,663	443	7,106	44.2	19.5	28
H29		6,718	557	7,275	45.3	19.9	30
H30		6,478	343	6,821	42.5	18.7	26
R元年		6,856	343	7,199	44.7	19.6	29

(2) 介護医療院

介護医療院の増床数については第7期北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画、上富良野町第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画との整合性が求められます。

今後の高齢者人口や要介護認定者数の推移、町内における他の施設の状況、町外の施設サービスの利用者(下表)から必要量を見極めつつ決定していかなければなりません。

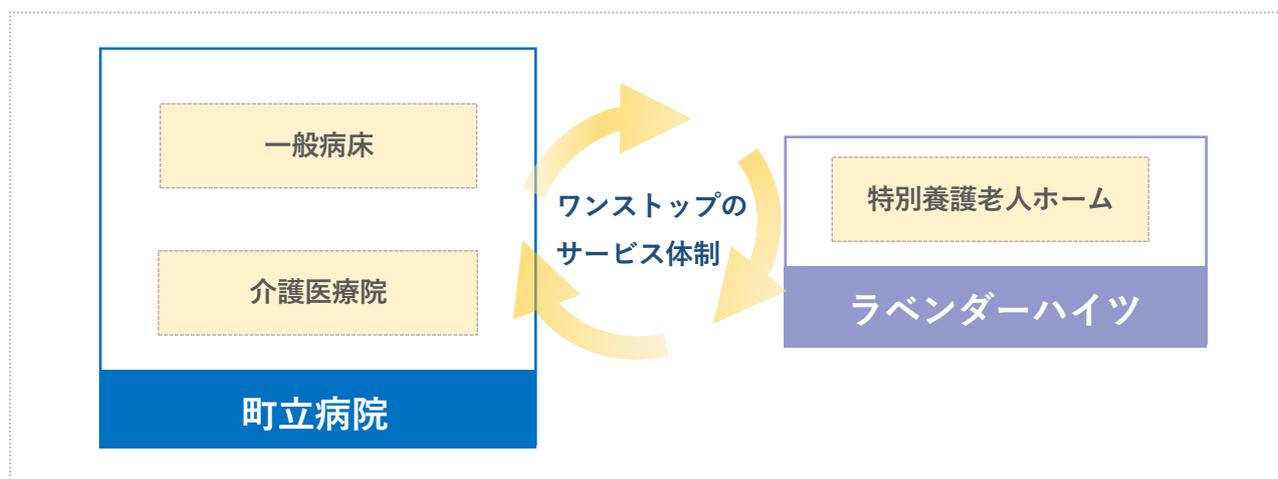
ラベンダーハイツと介護医療院の待機者が常時約10名であり、併せて30名以上の町民が町外の特養や老健等を利用している現状を勘案し、介護医療院28床については、12床を増床し、40床で検討いたします。

介護施設等の入所(利用)状況 令和2年5月利用分給付状況により (単位:人)

施設サービス区分	町内	町外	合計	町外内訳		
				富良野圏域	上川管内	その他
特別養護老人ホーム	49	13	62	7	4	2
介護老人保健施設	27	21	48	8	11	2
介護療養型病床	0	1	1		1	
介護医療院	0	2	2		2	
合計	76	37	113	15	18	4

全体としては、下図に示すように、患者の利用者の状況に合わせて、それぞれの施設が連携をとりワンストップで治療、療養、介護にあたるサービス体制を構築します。

町立病院・介護医療院と特別養護老人ホームとの連携



新町立病院が目指す方向性

・ 地域医療の確保

町立病院は地域における身近な公的医療機関として、重要な役割を果たしてきました。

地域住民にとっての「身近なかかりつけ医」として担うべき責務を全うし、町内の医療機関はもとより、富良野医療圏や旭川医療圏の各医療機関と広域的な連携を図り、現在の診療科目を基本に医療水準を維持しつつ、地域医療の確保に努めてまいります。

・ 救急医療の確保

一次救急はもとより高度な医療体制を有する旭川医療圏までの救急搬送には無雪期で約40分、積雪期には約1時間を要することから、重症外傷、心筋梗塞、脳血管疾患など、医師の初療までの時間が生死を分けるケースにおいては、救急指定病院の存在が患者の救命に直結するため各医療圏へ適切に搬送するゲートキーパー（門番）として大きな役割を果たしています。

救急医療体制については地域住民の安全・安心を担保するものとして、上富良野消防署、富良野医療圏、旭川医療圏との連携を図りつつ、今後においても維持してまいります。

・ 災害時における医療体制の確保

現町立病院は、昭和55年の建設以来40年を経過し、耐震の新耐震基準を満たしていない可能性があります。

活火山である十勝岳を抱えるまちとして噴火災害時はもとより、近年増加する大雨や地震などによる自然災害時においても機能を維持し、安定的に医療サービスを提供できる拠点としての整備を行います。

・ 公衆衛生・予防医療の確保

各職域での健康診断のほか、毎週水曜日の乳幼児予防接種や高齢者の各種予防接種を実施しております。

今後においても公衆衛生の保持、病気の発症と重症化を予防する体制を維持してまいります。

・ 院外での受診の確保

町立病院では陸上自衛隊上富良野駐屯地、特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」への訪問診療や、訪問リハビリを実施しています。

今後においてもこれらのサービスを提供していくとともに、新たなサービスの導入についても検討を加え、多様化する医療ニーズに対応してまいります。

5 医療と福祉の連携の確保

昭和 59 年建設の特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」は築 36 年を経過していますが、大規模な改修工事は未実施のため老朽化が進んでおり、今後、屋根や外壁など多額の維持補修費が見込まれています。

居室は多床室のみであり、個室化やユニット化など現在の介護ニーズに合致している状況はいえない状況です。

また、要介護度の高い入所者がほとんどであり、容体急変時には町立病院へ救急搬送するため、介護従事者の負担軽減、一刻を争う事態に対する迅速な対応を可能にする体制づくりとして、将来的な施設整備に向けて、新病院敷地内への併設について検討する必要があります。



町立病院とラベンダーハイツ・福祉施設の位置関係

II 新町立病院の基本方針の策定

基礎調査を踏まえ、基本方針として、施設整備の基本的な考え方、病床規模、診療機能及び診療科目について整理します。

1 施設整備の基本的な考え方

施設整備の基本的な考え方

・ 患者中心の施設整備

ユニバーサルデザインの採用や分かりやすい施設配置により、様々な利用者に対応できる施設を整備します。

医療安全、感染管理やプライバシーの保護に配慮した安心・安全な医療環境を整備します。

・ 経済性を考慮した施設整備

施設・設備のメンテナンスやライフサイクルコストなどを考慮した経済性の高い施設を整備します。省エネルギーによる地球環境への配慮と病院運営上のエネルギーコストを適正化できる施設を整備します。

・ 災害に強い施設整備

災害時を想定したライフラインの確保や、災害後にも病院機能を維持できる施設を整備します。

・ 機能的で動きやすい施設整備

機能的な施設配置と効率的な業務動線を確保します。

・ 変化に対応できる施設整備

医療制度の改革や医療技術の進歩、少子高齢化社会の医療ニーズなどの医療環境の変化に対応できる施設・設備を整備します。

2 病床規模

新病院は、現在の一般病床 44 床を 14 床削減し、一般病床数 30 床の規模としますが、地域医療構想等の不確定な要因が多い状況であるため、基本計画の中で検討します。

介護医療院 28 床については、ラベンダーハイツと介護医療院の待機者が常時約 10 名であり、併せて 30 名以上の町民が町外の特養や老健を利用している現状を勘案し、現在の介護医療院 28 床については、12 床を増床し 40 床で検討します。

項目	現 町立病院	増 減			新 町立病院
一 般 病 床	44 床	→	14 床削減	→	30 床
介 護 医 療 院	28 床	→	12 床増床	→	40 床
合 計	72 床				70 床

3 診療科目

現在の診療科目は、内科、外科、救急科と専門外来の肝臓内科（月 2 回）、血液・腫瘍内科（週 1 回）、循環器内科（隔週 1 回）、であります。過去に、泌尿器科や眼科を標榜しており、今後も、旭川医科大学と富良野協会病院との医療連携により診療科の拡充に努めてまいります。

4 整備スケジュール

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階		令和7年6月 (2025年) 開院
令和2年度 (2020年)	令和3年度 (2021年)	令和4年度 (2022年)	令和5年度 (2023年)	令和6年度 (2024年)	
基本構想 基本計画	基本設計	実施設計	建設工事・設計監理 令和7年3月竣工		

5 改築場所の検討

町立病院の現在地は、役場や消防、保健福祉総合センターかみんと隣接しており、利用者にとっては利便性が高い場所といえます。

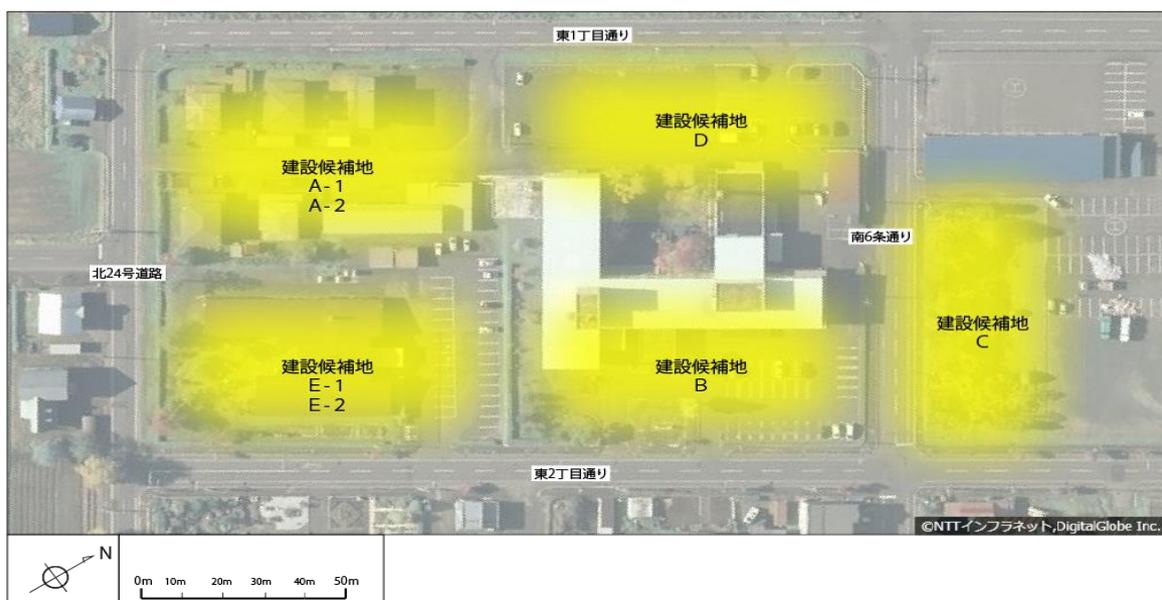
救急搬送においては、国道237号に近く、他医療機関への救急転送の際には市街地を通過することがないため、迅速な搬送が可能となっています。

しかし、同一敷地内において新病院の整備を進めるにあたっては、現病院の機能を維持しながら工事を進める必要があることから、必要な敷地確保のため、隣接する医師住宅、院内保育所、予防接種会場のほか、子どもセンターの現在地での施設存続の可否、町道東1丁目通り（役場裏玄関側の道路）と南6条通り（役場・町立病院間の道路）の廃止による敷地拡幅について検討する必要があります。

現在地以外での改築については、ラベンダーハイツの併設を含め、将来的な機能充実・強化にも対応できる広さがあり、利用者の利便性が損なわれなく、2次・3次医療圏へのアクセスが良く災害によるリスクが低いなどの地理的条件が必要となってきます。

現在、新病院の施設規模に適する広さの町有地を保有していないことから、用地買収にかかる時間や経費などを考慮に入れ、検討していく必要があります。

このように新病院の建設候補地が、他の場所に十分な機能と面積が確保できないことから、現在地において、次の7つの候補地を選定し検討しました。

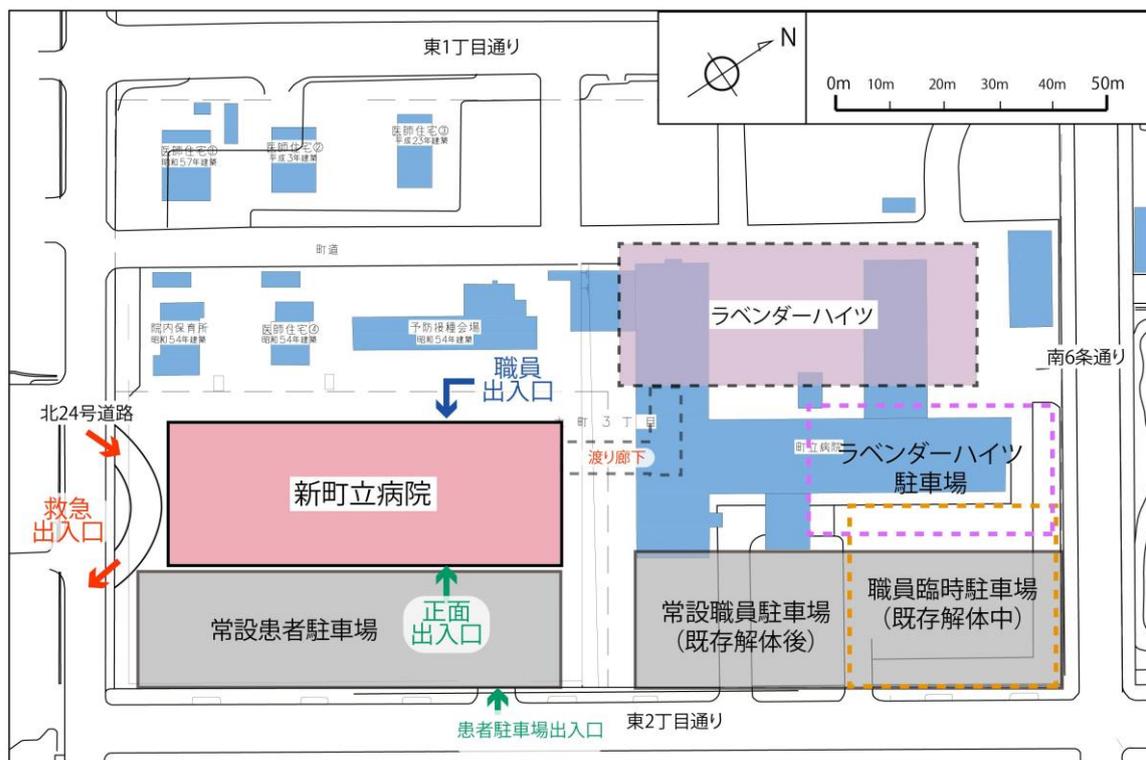


建設候補地一覧

6 建設予定地と配置図

現町立病院敷地内で建設候補地及びゾーニング計画を基に7案策定し、利便性・代替え施設・工事期間の周辺への影響・工事費、将来の福祉施設等の建設適地等を比較検討したところ、現子どもセンターの老朽化への対応も含め、建て替えに必要な敷地面積の確保が確保できる建設候補地のE-1、E-2を基本として検討し、E-1で決定しました。

配置イメージ図



7 階層計画

階数	現 町立病院	新 町立病院
3階		介護医療院 40床
2階	一般病棟 44床 介護医療院 28床	一般病床 30床
1階	外来・救急診療室 薬局、放射線、検査等	外来・救急診療室 薬局、放射線、検査等

8 概算面積と事業費

建設面積は、現在の3,717.075㎡から新病院は5,400㎡(1.45倍)とします。

概算事業費は官庁施設の積算要領、先行事例等により標準的な単価にて積算した結果、建設費約37億円(備品費除く)と見込まれます。

今後、基本設計の各段階において、より具体的な新病院に求められる役割や機能、必要な病床数などを検討し、詳細な事業費を算出します。また、整備財源については、企業債のほか、活用できる国や北海道の補助金を調査して財源の確保に向けた検討を行い、病院事業における実質負担の抑制に努めます。

上富良野町立病院 理念

地域住民の皆様の健康を守るため、
信頼される病院づくりを目指します。

〈 基本方針 〉

- ・ 安全で良質な医療を提供するため、
医療水準の向上に努めます。
- ・ 医療、保健、福祉と連携し、地域医療の充実に努めます。
- ・ 公共性を確保し、効率的で健全な病院運営に努めます。

上富良野町立病院改築基本構想

令和2年9月

上富良野町

〔上富良野町立病院 病院施設整備室〕

北海道空知郡上富良野町大町3丁目2番15号

TEL : 0167-45-3171

FAX : 0167-45-4578

E-mail : byouin@town.kamifurano.lg.jp